

2026年度 一般選抜（前期 2月2日）解答例

数学 I ・ 数学 A ・ 数学 II ・ 数学 B ・ 数学 C

問題 1 解答欄		問題 2 解答欄				問題 3 解答欄	
解答番号		解答番号	解答番号	解答番号	解答番号	解答	
ア	1	ア	4	サ	3	ナ	6
イ	0	イ	3	シ	2	ニ	4
ウ	6	ウ	3	ス	9	又	2
エ	4	エ	3	セ	4	ネ	3
オ	c	オ	4	ソ	3	ノ	4
カ	1	カ	3	タ	2	ハ	3
キ	1	キ	8	チ	7	ヒ	4
ク	7	ク	4	ツ	2	フ	2
ケ	a	ケ	4	テ	8	ヘ	8
コ	2	コ	8	ト	1	ホ	1
						記述式	別紙

2026年度 一般入試前期日程(2/2) 記述問題

1 数学I・数学A・数学II・数学B・数学C

[問題3] (解答例)

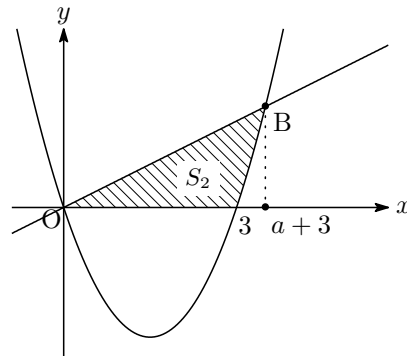
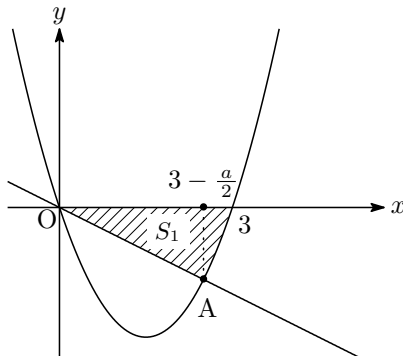
(1) C と l_1 は必ず原点を共有点にもつため、これが接点であればよい。 $f(x) = x(x-3) = x^2 - 3x$ とおくと $f'(x) = 2x - 3$ であるから、

$$f'(0) = -3 = -\frac{1}{2}a_0$$

より、 $a_0 = 6$.

(2) 点 A は l_1 と C の原点と異なる交点であるから、その x 座標は $x(x-3) = -\frac{1}{2}ax$ より $x = 3 - \frac{a}{2}$ である。このとき $y = -\frac{1}{2}a\left(3 - \frac{a}{2}\right)$ であるから、 $A\left(3 - \frac{a}{2}, -\frac{1}{2}a\left(3 - \frac{a}{2}\right)\right)$

点 B は l_2 と C の交点であるから、 $x(x-3) = ax$ より $x(x - (a+3)) = 0$ の解であり、原点と異なるのは $x = a+3$ のときであり、このとき $y = a(a+3)$ であるから、 $B(a+3, a(a+3))$



(3) 図形を以下の区間に分けて求める。

$$0 \leq x \leq 3 - \frac{a}{2} \quad \dots \textcircled{1}, \quad 3 - \frac{a}{2} \leq x \leq 3 \quad \dots \textcircled{2}$$

まず $\textcircled{1}$ の範囲では、(2) より三角形の面積から $\frac{1}{4}a\left(3 - \frac{a}{2}\right)^2$ である。また $\textcircled{2}$ の範囲では

$$\begin{aligned} -\int_{3-\frac{a}{2}}^3 x(x-3) dx &= \left[\frac{3}{2}x^2 - \frac{x^3}{3}\right]_{3-\frac{a}{2}}^3 = \left(\frac{27}{2} - 9\right) - \left(3 - \frac{a}{2}\right)^2 \left\{\frac{3}{2} - \frac{1}{3}\left(3 - \frac{a}{2}\right)\right\} \\ &= \frac{9}{2} - \frac{1}{2}\left(3 - \frac{a}{2}\right)^2 \left(\frac{a}{3} + 1\right) \end{aligned}$$

である。ゆえにこれらを加えれば,

$$\begin{aligned} S_1(a) &= \frac{a}{4} \left(3 - \frac{a}{2}\right)^2 + \frac{9}{2} - \frac{1}{2} \left(3 - \frac{a}{2}\right)^2 \left(\frac{a}{3} + 1\right) \\ &= \frac{1}{2} \left(3 - \frac{a}{2}\right)^2 \left\{ \frac{a}{2} - \frac{a}{3} - 1 \right\} + \frac{9}{2} \\ &= \frac{1}{2} \left(9 - 3a + \frac{a^2}{4}\right) \left(\frac{a}{6} - 1\right) + \frac{9}{2} \\ &= \frac{a^3}{48} - \frac{3}{8}a^2 + \frac{9}{4}a \end{aligned}$$

(4) $0 \leq x \leq 3$ を底辺, OB を斜辺とする直角三角形から $3 \leq x \leq 3+a$ の範囲で x 軸と C の間にある面積を引けば,

$$\begin{aligned} S_2(a) &= \frac{a}{2}(a+3)^2 - \int_3^{a+3} (x^2 - 3x) dx \\ &= \frac{a}{2}(a+3)^2 - \left[\frac{x^3}{3} - \frac{3}{2}x^2 \right]_3^{a+3} \\ &= \frac{a}{2}(a+3)^2 - \left\{ \frac{(a+3)^3}{3} - \frac{3}{2}(a+3)^2 - \frac{9}{2} \right\} \\ &= (a+3)^2 \left\{ \frac{a}{2} - \frac{(a+3)}{3} + \frac{3}{2} \right\} - \frac{9}{2} \\ &= \frac{1}{2}(a+3)^2 \left(\frac{a}{3} + 1\right) - \frac{9}{2} \\ &= \frac{a^3}{6} + \frac{3}{2}a^2 + \frac{9}{2}a \end{aligned}$$

(5) $S_2(a) = 8S_1(a)$ より,

$$\frac{a^3}{6} + \frac{3}{2}a^2 + \frac{9}{2}a = 8 \left(\frac{a^3}{48} - \frac{3}{8}a^2 + \frac{9}{4}a \right)$$

を整理すれば,

$$3a^2 + 9a = -6a^2 + 36a$$

より $9a(a-3) = 0$ を得る。いま $0 < a < 6$ であるから, $a = 3$.

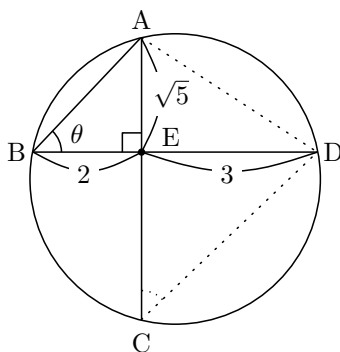
2026年度 一般選抜（前期 2月2日）解答例

数学 I ・ 数学 A

問題 1 解答欄		問題 2 解答欄		問題 3 解答欄
解答番号		解答番号		解答番号
ア	6	ア	0	別紙
イ	3	イ	3	
ウ	6	ウ	3	
エ	5	エ	8	
オ	5	オ	c	
カ	2	カ	6	
キ	0	キ	6	
ク	a	ク	4	
ケ	5	ケ	6	
コ	3	コ	5	

2 数学 I・数学 A

[問題 3] (解答例)



(1) $AB = 3$ より,

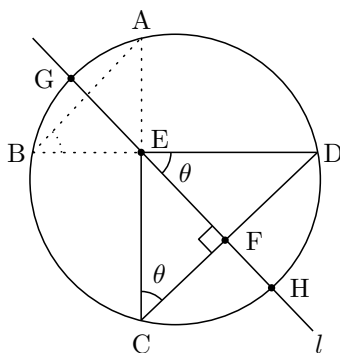
$$\tan \theta = \frac{\sqrt{5}}{2}, \quad \sin \theta = \frac{\sqrt{5}}{3}, \quad \cos \theta = \frac{2}{3}.$$

(2) 円周角の定理より $\angle ACD = \theta$, かつ $DE = 3$ より $\tan \theta = \frac{DE}{CE} = \tan \theta$ であり, $CE = \frac{DE}{\tan \theta} = \frac{6\sqrt{5}}{5}$

(3) $AD = \sqrt{5+9} = \sqrt{14}$ である. よって円 O に内接する三角形 ABD に正弦定理を用いれば,

$$R = \frac{1}{2} \cdot \frac{\sqrt{14}}{\sin \theta} = \frac{3\sqrt{70}}{10}$$

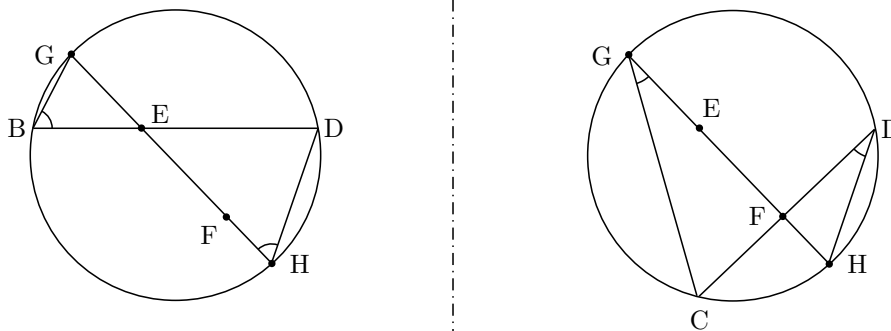
(4) 直角三角形 DCE と DEF の相似から $\angle DEF = \angle DCE = \theta$ であるから, それぞれの長さは



$$\begin{cases} CF = CE \cdot \cos \theta = \frac{6\sqrt{5}}{5} \cdot \frac{2}{3} = \frac{4\sqrt{5}}{5} \\ DF = DE \cdot \sin \theta = 3 \cdot \frac{\sqrt{5}}{3} = \sqrt{5} \\ EF = DE \cdot \cos \theta = 3 \cdot \frac{2}{3} = 2 \end{cases}$$

次ページに続く

(5)



円弧 DG の円周角について、 $\angle GBD = \angle GHD$ であるから、三角形 GBE と三角形 HDE が相似であるから $GE : BE = ED : EH$ より、

$$GE \cdot EH = BE \cdot DE = 2 \cdot 3 = 6$$

である。また、円弧 CH の円周角について、 $\angle CDH = \angle CGH$ であるから、三角形 FCG と三角形 FHD が相似であるから $GF : CF = DF : FH$ より、

$$GF \cdot FH = CF \cdot DF = \frac{4\sqrt{5}}{5} \cdot \sqrt{5} = 4$$

である。さらに、

$$\begin{cases} GF = GE + EF = GE + 2 \\ EH = EF + FH = 2 + FH \end{cases}$$

であるから、

$$\begin{cases} GE \cdot EH = GE(FH + 2) = 6 \quad \dots \text{①} \\ GF \cdot FH = (GE + 2)FH = 4 \quad \dots \text{②} \end{cases}$$

である。この辺々を引けば、 $2GE - 2FH = 2$ より $GE = FH + 1$ である。ここで $FH = x$ とおき、これを ① に代入すれば、 $(x + 1)(x + 2) = 6$ より $x^2 + 3x - 4 = (x + 4)(x - 1) = 0$ より $x = 1$ であり、 $FH = 1$ である。また $GE = FH + 1 = 2$ である。